

**「笑顔広がれ 大竹のまち」～高齢者となつなごろう～**

課題発見・解決能力, 主体性

1 日 時 7月 7日 (木) 5校時

2 学 級 第5学年2組 (男子20名, 女子17名 計37名)

## 3 単元設定の理由

## (1) 単元観

小学校学習指導要領(平成20年告示)では, 次のように示されている。「探究的な見方・考え方を働かせ, 横断的・総合的な学習を行うことを通して, よりよく課題を解決し, 自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 探究的な学習の過程において, 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け, 課題に関わる概念を形成し, 探究的な学習のよさを理解するようにする。
- ② 実社会や実生活の中から問いを見だし, 自分で課題を立て, 情報を集め, 整理・分析して, まとめ・表現することができるようにする。
- ③ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに, 互いのよさを生かしながら, 積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」

地域には, さまざまな立場の人々が暮らしている。本単元では, その中でも地域に暮らす高齢者とのつながりについて取り上げる。日本や大竹市の高齢者の現状を調べ, 高齢者の思いや課題を学ぶことで, 高齢者とのより良い関係を築くことへの意欲を高め, 相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーション能力を身に付けることができる考える。また, 高齢者の抱えている課題の解決のために, 自分たちにできることを相手の立場に立って考え, 実践する活動を通して, 自ら課題を設定し, 進んで解決する力をつけることができる考える。地域の高齢者とのつながりを通し, 大竹市で暮らす人々が共に笑顔で生きていけるまちづくりに社会の一員として携わり, 「大竹を愛する」大竹市民の一員として主体的に活動する児童の育成をねらい, 「笑顔広がれ 大竹のまち～高齢者となつなごろう～」を設定した。

## (2) 児童観

本学級の児童は, 4年生の総合的な学習の時間で「命」をテーマに自分と身近な人について取り上げ, 家族や地域の人々に支えられて今の自分があることに気付くことができた。

高齢者とのかかわりに関する児童アンケートでは,

- ・祖父母や曾祖父母(高齢者)と同居している。…2/37(人)
- ・祖父母といろいろな方法(直接, 電話, メール等)で話をよくする。…27/37(人)
- ・地域の高齢者と触れ合う機会がある…22/37(人)

の結果にあるように, 高齢者と同居している児童は少ないが, 電話やメールで話をするなどのいろいろな方法で祖父母とよく話をしている児童は多い(全体の8割弱)。また, 地域の高齢者と関わっている児童は全体の6割強である。触れ合い方は「学校の登下校で挨拶をする。」程度にとどまっている児童が多い。さ

らに、地域の高齢者と触れ合っていないと答えた児童の中には、登下校で挨拶はするが、それを高齢者との触れ合いであると認識していない児童もいると考えられる。

高齢者に対しては、「歩くのが遅い。」「歩くのが痛そう。」「家事が大変そう。」「優しい。」「挨拶をしてくれる。」というイメージをもっている。また、「助けたい。」「何かできることはないか。」「仲良くしたい。」という気持ちをもっているが、高齢者の抱えている困り感や不安が何であるのか、具体的にどのような行動を取ればいいのかを考えることができる児童は少ない。

### (3) 指導観

本単元では、地域に住む高齢者が抱えている課題や願い、高齢者を支える人の願いから、自分たちでできることを考え実行させる。指導に当たっては、次の点に留意する。

#### ①思考ツール

児童が考えたことを可視化し、考えることを助けられるよう、学びに応じた思考ツールを活用することで、児童自身が自分の学習を整理し、次の思考につなげられるようにする。イメージマップ、ステップチャート、Xチャート、ピラミッドチャート、クラゲチャートなど、それぞれの思考ツールの特性を理解し活用する。

#### ②PBLの考え方をを用いた課題発見・解決学習

大竹のまちを笑顔にするという大きな課題を設定し、高齢者の現状や願い、高齢者を支える人々の願いをもとに、自分たちに何ができるか考え、計画・行動し、解決することができるようにする。その過程で疑問や新たな課題を見付けられるように仕組み、その度に疑問や課題を解決するにはどうすれば良いかを考え、行動しながら、大きな課題の解決に向かっていくプロセスを大切にする。地域の高齢者のために、自分たちが主体的に活動し、発信や提案をすることで大竹のまちづくりの一員である自覚をもち、自己の生き方へとつなげることができるようにしていきたい。

#### ③リフレクション

調べたことや活動内容をその都度振り返り、自分のできたこと、できなかったこと、そしてゴールに向けて必要なことを考え、次の学びにつなげていくようにする。また、児童の学習を重ねるごとに変容する考えや、高齢者に対する思いを児童自身が実感し、それを学習の成果だと捉えられるよう、必要に応じて前時までの振り返りや学びを見返すことのできる環境づくりをする。

#### ④ルーブリック評価

評価に関しては、自分の考えと友だちの考え、高齢者の願いや高齢者を支える人の願いを照らし合わせながら、高齢者の方の立場に寄り添い、自分たちでできることを考えているかどうかを見取っていく。それぞれの評価規準にルーブリック評価を作成し、指導することと評価する規準を合わせる。また、授業の際にルーブリック評価の規準を児童に提示することで、児童は自分たちの目指す姿が分かり、何をすべきか、どうすればより良い学びになるのかを明確にする。さらに、自分の学びをルーブリック評価規準と照らし合わせ、自己評価することにより、次時の活動意欲につながるようにする。

## 4 単元の目標

- 高齢者に関わるさまざまな立場の人々の暮らしについて調べたり、話を聞いたりして、その人たちの思いや努力を知ることができる。
- 将来の大竹のまちづくりの主演として、今、自分にできることを考え、実行することができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 高齢者や高齢者を支える人々の現状，抱えている課題を理解している。</p> <p>② 目的をもって，タブレットや図書等を活用し，適切に情報を収集し，まとめている。</p> <p>③ 「高齢者の笑顔を広げたい」という思いの高まりは，高齢者や高齢者を支える人々の抱えている課題等について探究的に学習してきた成果であると気付いている。</p>	<p>① 高齢者が抱える課題や現状を知り，大竹に住む人たちの笑顔を広げるために，学習課題を設定している。</p> <p>② インターネットや図書，ゲストティーチャーの話等から必要な情報を収集している。</p> <p>③ 収集した情報を課題解決の視点から分類・精選し，得られた情報から自分なりの考えをもっている。</p> <p>④ 収集した情報から今の自分達にできることを考え，実行に向けての行動を進めている。</p>	<p>① 異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分の考えをもって課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>② 「高齢者の笑顔を広げる」課題解決に向けて，見通しをもって，友達と協働しながら意欲的に進めている。</p> <p>③ 地域の高齢者のために自分に何ができるか考え，未来の大竹のために継続的に高齢者と関わろうとしている。</p>

6 単元の全体計画（全 31 時間）

次	学習内容	評価			
		知・技	思判表	主体的	評価規準 (評価方法)
1	<p>&lt;課題の設定①&gt; ○これまでの学習活動を振り返り、これからの活動テーマについて考える。(1)</p>		①		自分と地域との関わりについて考え、これからの学習の見通しをもつ。(ワークシート)
	<p>○大竹にはどんな人が暮らしているか考え、それぞれの人の「笑顔が広がる」とはどうなることかを考え、学習計画を立てる。(3)</p>		①		大竹に住む人たちの笑顔を広げるために、学習課題を設定している。(行動観察、ワークシート)
2	<p>&lt;情報の収集&gt; ○高齢者のくらしや現状、課題を調べる。(4)</p>		②		インターネットや図書を使い必要な情報を収集している。(行動観察、ワークシート)
	<p>○福祉施設の方から話を聞き、認知症や、介護者の抱えている課題や願いについて知る。(認知症サポーター養成講座、介護ヘルパー講座) (3)</p>	②			ゲストティーチャーの話や資料等から、目的意識をもって必要な情報を収集している。(発言・行動観察)
	<p>&lt;整理・分析①&gt; ○地域の高齢者が抱えている課題を整理し、さらに知りたいことについて考え、取材をする計画を立てる。(2)</p>		②		収集した情報を分類・整理し高齢者について自分の周りや一般的な現状を知ろうとし、自ら考えている。(行動観察、ワークシート)
	<p>○身近にいる高齢者や福祉施設の方から情報収集し、高齢者が抱えている課題や、願い等について考える。(2)</p>	①			高齢者や高齢者を支える人々の現状、抱えている課題を理解している。(行動観察、ワークシート)
3	<p>&lt;整理・分析&gt; ○大竹市の高齢者が抱えている課題や高齢者の願いについて整理する。(3)</p>		③		収集した情報から高齢者が抱えている課題について整理し、比較している。(行動観察、ワークシート)
	<p>○これまでの学習をもとに、高齢者を笑顔にするために自分たちにできることについて、友だちの意見も取り入れながら考えることができる。(本時)(1)</p>			②	高齢者を笑顔にするために自分たちにできることについて、友だちの意見も取り入れながら考えている。(行動観察、リフレクションシート)

	<p>&lt;課題の設定②&gt;</p> <p>○地域の高齢者のために自分たちができることを考え、課題解決のための計画を立てる。(1)</p>		④		<p>収集した情報から今の自分達にできることを考え、実行の計画を立てている。(行動観察, ワークシート)</p>
4	<p>&lt;実行&gt;</p> <p>○計画をもとに「高齢者の笑顔を広げる」ために必要な準備をする。(4)</p>			③	<p>「高齢者の笑顔を広げる」ために自分たちにできることを、見通しをもって友だちと協働しながら計画的に進めている。(行動観察, ワークシート)</p>
	<p>○計画をもとに「高齢者の笑顔を広げる」ために必要なことを実行する。(4)</p>			①	<p>高齢者の立場に寄り添い今の自分たちにできることを行っている。(行動観察, 成果物)</p>
	<p>&lt;まとめ・表現&gt;</p> <p>○実行し終え、考えたことを交流する。(2)</p>	③			<p>相手の立場に立って考え行動することの大切さに気づき、自分たちにできることを考えている。(行動観察, ワークシート)</p>
	<p>&lt;振り返り&gt;</p> <p>○今までの活動を振り返る。(1)</p>			③	<p>地域の高齢者のために自分に何ができるか考え、未来の大竹のために継続的に高齢者と関わろうとしている。(行動観察, ワークシート)</p>

7 単元のルーブリック

知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
①	A	高齢者や高齢者を支える人々の現状，抱えている課題を様々な視点から理解している。	①	A	高齢者が抱えている課題や現状を知り，大竹に住む人たちの笑顔を広げるために，根拠や目的をもって，学習課題を設定している。	①	A	異なる意見や他者の考えを受け入れながら，実行することを前提に，自分の考えをもって課題解決に向けて取り組んでいる。
	B	高齢者や高齢者を支える人々の現状，抱えている課題を理解している。		B	高齢者が抱えている課題や現状を知り，大竹に住む人たちの笑顔を広げるために，学習課題を設定している。		B	異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分の考えをもって課題解決に向けて取り組んでいる。
②	A	目的意識を明確にししながら，タブレットや図書等を活用し，適切に情報を収集しまとめている。	②	A	インターネットや図書，ゲストティーチャーの話等から，課題解決への見通しをもって必要な情報を収集している。	②	A	「高齢者の笑顔を広げる」課題解決に向けて，相手の立場に立って見通しをもって，友だちと協働しながら意欲的に進めている。
	B	目的をもって，タブレットや図書等を活用し，適切に情報を収集しまとめている。		B	インターネットや図書，ゲストティーチャーの話等から必要な情報を収集している。		B	「高齢者の笑顔を広げる」課題解決に向けて，見通しをもって，友だちと協働しながら意欲的に進めている。
③	A	「高齢者の笑顔を広げたい」という思いの高まりは，高齢者や高齢者を支える人々の抱えている課題等について探究的に学習してきた成果であると気づき，今後の生活や学習につなげたいという思いをもっている。	③	A	収集した情報を課題解決の視点から分類・精選し，これまでの学習や友だちの意見を参考に自分なりの考えをもっている。	③	A	地域の高齢者のために自分に何ができるか考え，自分と地域の関わりを考えながら，未来の大竹のために継続的に高齢者と関わろうとしている。
	B	「高齢者の笑顔を広げたい」という思いの高まりは，高齢者や高齢者を支える人々の抱えている課題等について探究的に学習してきた成果であると気付いている。		B	収集した情報を課題解決の視点から分類・精選し，得られた情報から自分なりの考えをもっている。		B	地域の高齢者のために自分に何ができるか考え，未来の大竹のために継続的に高齢者と関わろうとしている。

	④ A	収集した情報から根拠を明確にして、今の自分たちにできることを考え、実行に向けての行動を進めている。	
	B	収集した情報から今の自分たちにできることを考え、実行に向けての行動を進めている。	

8 単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

資質・能力	目指す児童像
課題発見・解決能力	自分の住む地域の現状を調べることで、課題を見付け、それを解決するために自分たちにできることを考え、実行することができる。
主体性	地域の高齢者とのつながりを通して、大竹で暮らす人々が共に笑顔で生きていけるまちづくりに社会の一員として携わり、「大竹を愛する」大竹市民の一員として主体的に活動することができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

これまでの学習をもとに、高齢者を笑顔にするために自分たちにできることについて、友だちの意見も取り入れながら考えることができる。

(2) 準備物

モニター、リフレクションシート（クラゲチャート）、短冊、ホワイトボード

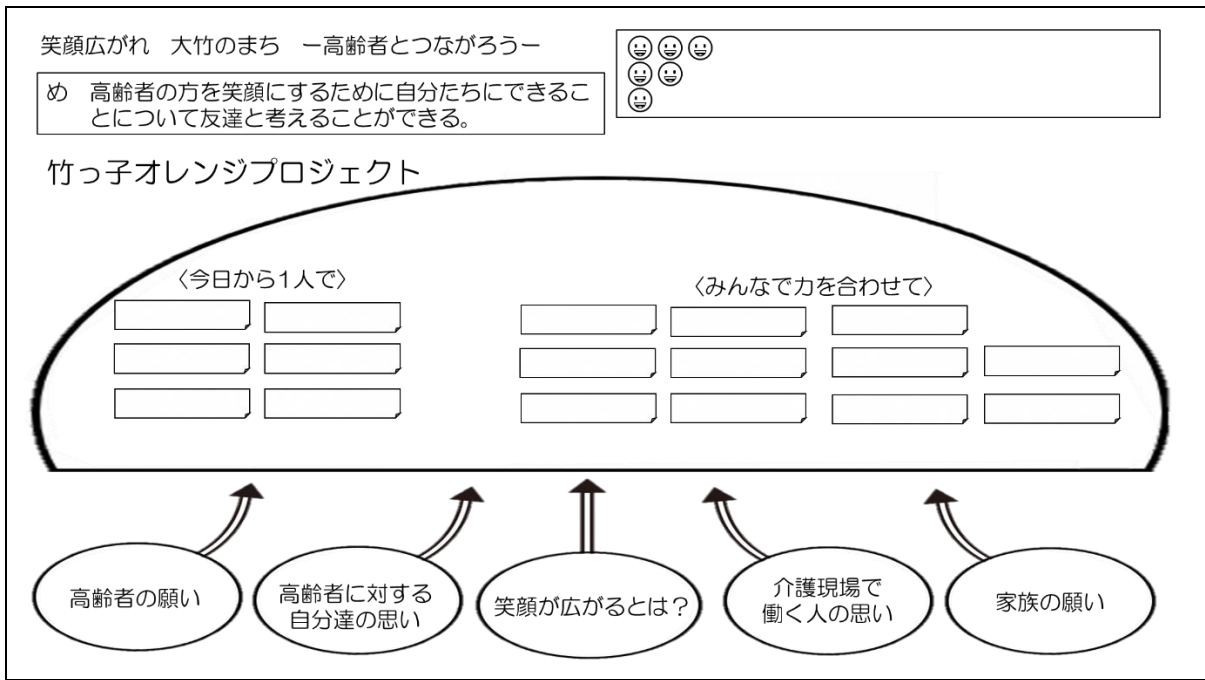
(3) 展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項	【観点】 評価規準 (方法)
	T：主な発問・指示 C：予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ▲支援を要する児童への手立て	
見通しをもつ	1. 前時までの活動について振り返る。 T：これまでどんな活動をしましたか。 C：自分で高齢者について調べたり、認知症講座で話を聞いたりしました。 C：高齢者の願いや、家族の願い、介護現場で働く人の思いを考えました。 2. 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         ㊟ 高齢者の方を笑顔にするために自分たちにできることについて考えることができる。                     </div>	・T1が課題提示や全体指導を行い、T2は板書と支援が必要な児童のサポートを行う。 ○調べ活動やゲストティーチャーの方のお話、これまで行った取材活動や、そこから整理分析した内容などについて振り返りをさせる。	
自分の考えをもつ	T：今日のめあてはどうですか。 C：自分たちにできることを考えます。 C：高齢者の笑顔が広がるようなこと。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">                         ルーブリック（主体的②）                          児童との評価の共有                          A：(+) 高齢者の立場に立って理由づけて考えることができる。                          B：竹っ子オレンジプロジェクトに向けて、内容を友だちと考えることができる。                     </div> 3. 高齢者の抱える課題や願いをもとに、高齢者のために自分たちができていることを考える。 T：高齢者を笑顔にするために、自分たちにできることは何だろう。 C：出会った時に明るい挨拶をする。 C：困っていたら優しい声をかける。 C：運動会のソーラン節を踊りたい。	・T1は、活動の流れを示した掲示物をもとに本時の位置付けを確認する。 ・T2は、本時のスマイルポイント（ルーブリック）について提示する。 ○前時までに作成したクラゲチャートを確認し、高齢者や高齢者を支える人の願いをもとに考えるようにする。 ▲具体的な案が出ないグループには、「高齢者はどうすれば喜んでくれるか。」という視点を与える。 ○整理した内容をもとに、自分たちのできていることを考えさせる。 ・T1とT2で分担して児童の支援にあ	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>【主体的】</b>                          ○高齢者を笑顔にするために自分達にできることについて、友だちの意見も取り入れながら考えている。(行動観察、リフレクションシート)                     </div>



<p>考 え を 交 流 す る</p> <p>振 り 返 る</p>	<p>4. 各自が考えたことを出し合う。        &lt;グループ&gt;        T: 話し合いながら、キーワードを短冊        に書きましょう。        T: なぜ、それをしたらいいと考えたの        か、理由も合わせて交流しましょ        う。        C: 高齢者が元気になれるように、ソー        ラン節をみんなで踊りたいな。        C: 高齢者が楽しく生活できるように、        手作りのものをプレゼントしたい。        T: 「今日からすぐにできること」と「み        んなで力を合わせるもの」に分類し        てみましょう。</p> <p>&lt;全体&gt;        グループで書いた短冊を黒板に貼り、        できることとその理由を交流する。        T: どんな理由で～を出しましたか。        C: 私たちが～すると、高齢者は笑顔に        なると思います。        C: 私たちが～すると、高齢者や介護者、        家族の願いも同時に叶えられると        思いました。</p> <p>5. 振り返り        リフレクションシートに、今日の活        動について振り返る。        T: 次の時間はどうしたい？        C: アイディアが多く出た、プロジェク        トの内容を決定したいな。        C: 「みんなで力を合わせるもの」を実        現させたいな。        T: スマイルポイントは、プロジェクト        に向けて考えることができたなら1つ、        友だちの意見も参考にして考えてい        たら2つ、高齢者の立場に立って考え        ていたら3つ塗りましょう。</p>	<p>たる。</p> <p>○自分たちにできることを考えるとき        に、理由（それぞれの人の願いとのお        つながり）を大切にさせる。        ・T1 とT2 でグループを分担して話し        合いの支援にあたる。</p> <p>○同じ考えは重ねて貼り、似たような考        えは近くに貼るなど整理しながら貼        っていくようにする。        ・T1 は全体指導、T2 は個別の支援に        あたる。</p> <p>○「今日からすぐにできること」は今日        からする、「みんなで力を合わせるこ        と」は次時に精選することを確認し、        本時の学びをまとめ、次時につなげ        る。        ・T1 は振り返りの指示、次時の見通し        をもたせる。        ・T2 はスマイルポイントの確認と振り        返りの発表者を見つける。</p>	<p>振り返りの評価</p> <p><b>【主体的】</b>        A: 高齢者を笑顔にする        ために自分たちにで        きることを、相手の立        場に立って、友だち        と協働しながら考え        ている。        B: 高齢者を笑顔にする        ために自分たちにで        きることを、友だちと        協働しながら考えて        いる。        (行動・リフレクションシ        ート)</p>
---	--	---	---

(4) 板書計画



# 笑顔広がれ大竹の町～高れい者とながろう～

5年( )組名前( )

竹っ子オレンジプロジェクト

わたしたちにできること

高齢者の願い

高齢者に対する  
わたしたちの思い

笑顔広がるとは？

介護現場で  
働く人の思い

高齢者の  
家族の願い



「本質的な問い」（カリキュラムを構成する質問の三つの階層）の考え方を参考に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画を構想する準備をしてみましょう。

校種・学年 小学校・5学年

教科等 総合的な学習の時間

単元（題材）名 笑顔広がれ大竹のまち  
高齢者とつながろう

### ① 本質的な問い （何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

大竹のまちに愛着をもち、大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいか。  
大竹のまちの人々を笑顔にすることはどういうことだろう。

### ② 単元を貫く問い （単元を通して考え深めていく「問い」）

大竹のまちの高齢者を笑顔にするためにできることは何だろう。

### ③ 個別の問い （単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

- ・ 高齢者は、どのような生活をしているのだろう。
- ・ 高齢者の課題を解決するためにできることを考える。
- ・ 大竹の高齢者のためにできることを考え、計画・実行する。

## 単元計画の 構想を立てる

- ・ 課題計画のための学習計画を立てる。
- ・ 現状、問題点を調べる。
- ・ 収集した情報を整理し、まとめ、発信する。
- ・ まとめた内容を交流する。
- ・ 自己評価をする。